

＜ 今日の説教のポイント 出エジプト記 20 章 1～2 節 ＞

1 十戒とは：神様から与えられた、聖書全体の中で最も大事な戒め。

エジプトで奴隷であったイスラエル人が神様によって救い出された後、シナイ山で与えられた戒めの中心がいわゆる「十戒」です。よって、十戒は旧約聖書を重んじる宗教ではとても大事なもののなのです。その十戒について、これから学んでいきます。十戒はほとんどの戒めが「～してはならない」という禁止命令形です。今は、褒めてやる気を起こさせることが大事とされる時代ですから、それに逆行していて否定的なものに思えるかもしれません。しかし聖書が言わんとしていることを正しく読み取れたら、むしろ肯定的なものであることが分かるのです。

2 (1-2) 読み飛ばしそうな出だしの 2 節が大事。この神様が下さった！

「神はこれらすべての言葉を告げられた。“わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である”」(1-2)。十戒をイスラエル人に語られたのは、今し方、彼らをエジプトの奴隷状態から救い出して下さった神様なのです。ですから、「～してはならない」という言い方が奴隷状態を生む語りかけではないことはこの時のイスラエル人が一番分かっていたことなのです。さらに言うなら、奴隷状態から解放された自由をただ「これからは何でもしたいことを自由にできる」と考えるならそれは違います。人間は全くの自由の中に置かれるとかえって不安を覚えて自分に指示を与えてくれるものを求める存在であり、それが誤った相手ならとんでもないことになるのです（「自由からの逃走」(エーリッヒ・フロム)。これはイスラエル人もこの後の歴史の中で示すことになる姿であり、旧約聖書を読むということは、人間については、そのことを知ることだと言えるでしょう。しかし、その彼らのところに来て下さった恵みに満ちた神様がおられるのです！ よって、3 節以下の十戒について学んでいくに際し、この出だしの 2 節が持つ意味をしっかりと捉えておくことが大事なのです。「～してはならない」と訳された表現の元のヘブル語のニュアンスは、「あなたはもう私を知っているのですから～する必要はないでしょう。だから～してはなりませんよ」なのです。ですから次に大事なことは、この神様と共に生き、どのような生き方をしていけばいいのかを考え、取り組んで行くことなのです！